

# 感じるにいがた

Vol.60

「感じるにいがた」とは  
新潟の商業や産業の活性化を目的とし、  
中小企業の皆さまへビジネスヒントや  
経営に役立つ情報を提供します。

## 会社概要

所在地: 柏崎市藤井1358-4  
設立: 昭和38年  
業務内容: 自動車部品・生産設備部品の切削・  
研削加工



低コスト・高品質の製品づくりを提案し、幅広い業界の製品を手掛けて近年急成長している。中国に進出することで事業の幅も広がった。柏崎でひとりでも多くの人々が働ける場所を造りたいと考え、女性や障がい者を積極的に雇用している。



代表取締役  
長澤 智信 氏

## ▶▶ 株式会社 テック長沢



### ひとりでも多く雇える 企業になることを目指して

切削加工・研削加工を手掛け、主に自動車や産業機械用の部品を製造している株式会社テック長沢。創業から55年を経て、近年急速に規模を拡大している注目の企業だ。

3代目である長澤智信社長が入社した2003年時点で20人だった社員は、現在パートも含めると160人を超えている。こうした急成長の背景には、長澤社長の柏崎への思いがある。「ひとりでも多くの人々が働ける場所を柏崎に作りたい。景気が悪いときには、高校生一人の募集に何人も応募があって、面接をするとみんないい子で。柏崎で就職できなければ、市外に出ていってしまいます。だからひとりでも多く採用できる企業になりたいと思って、社内で初めての営業担当になり、今に至っています」。

そんな長澤社長の信条は“人のやっていないことをやる”。中国に会社を設立したのも3年前。周囲が驚くタイミングだった。「当初は商社経由で部品を調達して、中国の企業へ技術指導に行ったりしていたのですが、一気に円安になったり、反日デモが起きたり、中国の件費が高くなってきて、日本企業が中国から撤退する流れになってきた。そこで、他が撤退するのなら、独自で出ようと。みんなと一緒に出たら、日

本と同じ競争が起きる訳だから面白くないじゃないですか。もちろん、いろいろな準備をして、いい出会いがあって、勝算があったから進出を決意しました。3年経って、黒字化もできたのでよかったです」。

中国進出によって、お客様にさまざまな選択肢を提案できるようになり、事業の幅が広がったと長澤社長は話す。そして、大きな刺激ももらっているようだ。

### 仲間や協力者との出会いが 会社の成長に繋がっている

「中国でのビジネスには悪いイメージを抱く人もいますが、経済発展は続いているし、良い人もたくさんいる。中国でも日本でも、相手を悪く言うのは現地を知らない人たちですね。中国は日本よりもはるかにグローバル。バーに行けばアメリカ人とドイツ人とスイス人とフランス人が乾杯していたりする。日本にいれば、日本をスタンダードだと思ってしまいがちですが、中国のほうが世界と近いと感じます」。

もうひとつ、経営者として大切にしていることが人と会うこと。新卒者向けの会社説明会も、社長が直接話をする。「社長業のなかで一番重要なのは誰と出会うか、誰を採用するかだと思っています。会社が事業を拡大できているのも、中国に進出できたこと

も、やはり出会い、仲間になってくれる方がいたからこそです」。

多様な人材を活用していくことが、会社の成長の重要な要素だと考える同社。工場内には女性社員も多く働いている。また、社員数が100人を超えたタイミングで、障がい者の雇用も始めた。「ごく自然に職場に溶け込んでいますし、熱心に仕事に取り組んでくれていますね。現場の表示を彼らにも分かりやすくしたことで、全員が間違えにくくなり、外国人研修生にも伝わりやすくなるなど、誰もが働きやすい環境づくりに目を向けるきっかけにもなったようだ」。



長澤社長は創業190年の味噌醤油の醸造元や柏崎の地域活性化を担う会社の代表も務めている。「自分の生まれた地域の役に立ちたい。同級生たちが市外へ出て戻らない理由も、いい働き場所がないからだと言われてしまうんです。テック長沢を“柏崎にもこんないい会社があるなら戻ってこれるじゃないか”と言われるような会社にすることが、今後の目標です」。

### Pick UP



生産技術 櫻 智弘さん

大学で工作機械に関する研究をしていて、その知識と前職の電子関係の仕事の経験を活かせると感じてテック長沢に転職しました。まだ入社から日は浅いですが、最近初めて治具の設計をさせてもらい、やりがいを感じました。また、以前の仕事では親元を離れていましたが、地元の柏崎に戻ってきて親も喜んでみたいですね。これからはもっと勉強して、将来的には今まで会社になかったものを開発できるような人材になっていきたいと思っています。

### ビジネスポリシー 3カ条

- ① 地域に良質な雇用を生み出す
- ② 人のやっていないことに挑戦する
- ③ 多様な人材を活用していく

### わが社のこだわり

### 新年の稼働日には全員で記念撮影 会社としての一体感を大切に

社内においては、全社員の一体感を大切にしたいと思っています。社員には仲間意識や、お互いに助け合い、協力し合って進んでほしいですし、そうした点も人事考課の評価に入れていきます。

交代勤務があるので、全社員が集まることはほぼないのですが、毎年1月の最初の稼働日だけは全員が日勤で揃います。毎年、その日に全員で記念写真を撮って、ホームページのトップにしたり、展示会でもその写真を飾ったりしています。

社員には、それぞれが職場での経験やチャレンジを通して成長し、喜びを感じてもらいたいと思っています。



1つ1つ丁寧な製品づくりを行い、品質を保つことを徹底している。社員はお互いに助け合うことで仲間意識を高め、職場での経験や挑戦で、自分の成長を感じてもらえるようにしている。

### 未来への 視点

### 新しいこと、人がやらないことに 常に挑戦していく会社でありたい

これまでのように、お客様の要望を図面にし、形にしていくことも大切な仕事ですが、そこにプラスアルファとして、我々から広く思いを発信できるような商品づくりもやっていきたいと思っています。

今回、新潟工科大学の協力を得て、「電動ねじゲージ」を商品化し、一般発売を始めました。最終製品を売り出すのは、会社としても新たな挑戦です。こうした取り組みも含めて、常に新しいことをやっていきたいと思っています。